障害のある人と企業を結ぶ情報紙

サポセンだより

埼玉県マスコット
「コバトン」「さいたまっち」

第７号
2023.3

「サポセン」は、埼玉県障害者雇用総合サポートセンターの愛称です。

特集　障害者と共に働く企業インタビュー

今回のサポセンだよりは、障害者雇用に真剣に取り組まれている企業2社を取材させていただきました。
一社は多様な働き方の1つとして週20時間未満の勤務を柔軟に受け入れる企業さん。もう一社は企業規模が小さいながらも頑張って障害者雇用を進められている企業さんを御紹介します。

共立食品工業株式会社（食料品製造業）

共立食品工業株式会社は、草加市内に本社と3つの工場を展開するナッツやドライフルーツなどで有名な食品会社です。
従業員215名のうち、4名の障害者（知的2名・精神2名）が正社員やパートの皆さんと一緒に活躍しています。
今回は、週20時間未満勤務からの雇用を進められたとのことでお話を伺ってきました。

管理チームマネージャー　町井（まちい）　一久（かずひさ）　さん

工場長　名倉（なぐら）　守（まもる）　さん

にお話を伺いました。

インタビューに答える
町井管理チームマネージャー（手前）と名倉工場長（奥）

週20時間未満の雇用のきっかけ

当社では、もともと4名の障害者が働いていましたが、昨年6月に1名退職されました。

その後任として、誰か1名を採用ということになった時、今働いてもらっている山崎さんと支援機関を通して出会いました。

山崎さんは長い間働いていなかったとのことなので、先ずは週20時間未満の短い勤務時間から始めるのはどうかと勧められたことがきっかけです。

以前からいろんな働き方があって良いと考えておりましたし、「やってみないと分からない」という気持ちで受け入れました。当社は3工場ありますが、「他の工場のモデルになるかも」という考えもありましたね。

サポセンの支援

サポセンには以前から当社の障害者雇用のサポートのため、時折顔を出してもらっていました。

今回、山崎さんの話を進めるにあたって、支援機関の紹介で、週20時間未満勤務からの雇用をサポセンのコーディネーターにサポートしてもらうことになりました。

担当のコーディネーターには、気持ち的に助けられたと思っています。
山崎さんの勤務について、最初の数か月は現場の人間や支援機関が集まって話し合いをしていたのですが、参加してアドバイスをしてくれました。

何も分からない中、コーディネートだけでなくこまめにアドバイスしてもらったことは、週20時間未満勤務からの雇用を進める上で後押しとなったと思います。

受入れの状況

山崎さんは、昨年8月から勤務を開始しました。最初は1日3時間の週5日だから、週15時間勤務です。

仕事の内容は、製品を詰める箱をパレットに積み上げていく作業です。
黙々と作業していましたね。久しぶりの仕事で緊張していたかもしれません。始めたばかりのころは疲れていた様子でした。一方で仕事の理解は早かった印象です。

特段、決まった休憩時間というのも必要なかったらしく、他の従業員と同じように自分で一息ついたりトイレに行ったりしていました。支援機関との話し合いの場でも本人からは「大丈夫」という言葉が出ていました。

配慮について

現在山崎さんは、前からいた知的障害のある従業員とペアで仕事をしていますが、全く問題ありません。箱の積み上げは、当日すぐ使うものではなく翌日使用するものなので、時間的余裕もあり精神的プレッシャーが少ないものとなっています。

困っていることがあればいつでも周りに聞くように言っていますし、他の従業員にも相談に乗るよう伝えていますが、順調に行っている様子で、今のところ特別に配慮する必要性は感じてないですね。

本人も先ずは今の仕事に慣れたいと思っているようなので、もう少し先になりますが洗い物など新しい仕事をどんどんやってもらいたいと考えています。

週20時間未満の勤務について

当初は1日3時間勤務だった山崎さんも、10月の契約の更新時に、本人からの申出で1日4時間に増やし、結果として障害者雇用率に算定できる週20時間以上の勤務となりました。

週20時間未満の勤務については、当社の場合障害者が同じフロアで仕事をしていることもあり、シフトが組みにくくなるという難しさはありました。

しかし一方で、週20時間未満向けの仕事の切り出しはいくらでもできたので、短時間で働きたい人に来てもらえるかなとも思いました。

短い勤務を希望する方で当社に合った人に来てもらい、慣れれば勤務時間を週20時間、週30時間と増やしていければ、障害者雇用率のアップにつながり会社としてもメリットがあると思います。

もちろん勤務時間を増やすことを強要するつもりはありません。あくまでも本人の希望次第です。山崎さんにしても、調子を見ながら少しずつ増やしていければ良いなという気持ちです。

今後に向けて

当社の理念に「絆を大切にする　あたたかく確かな企業であり続けたい」というものがあり、その原点として従業員を家族と考えています。

障害者がいると、従業員も彼らのお手本となりたいと思うのか小さなイザコザがなくなり、職場の雰囲気があたたかくなり家族的なつながりが生じます。

何より、これから会社を支える若い人にとって、入社した時から職場に障害者がおり、障害者と働くことが普通のことと思ってもらうことは、理念の実現に限りなくプラスになると思います。

経営者からは障害者雇用を進めるよう言われており、勤務時間に拘わらず雇用を考えていきたいですね。

サポセン 当事者 インタビュー

当初の週20時間未満から、週20時間以上勤務にステップアップした山崎 征弘さんにお話を伺いました。

Q 仕事はいかがですか？

A まだ慣れていないですね。仕事内容が変わると躊躇する時があります。

Q 働いて楽しいことは？

A 指示書を理解できるようになるなど、いろいろ仕事を覚えています。就労を考えるようになって人との付き合いも楽になりました。

Q 週20時間未満の勤務から始めた理由は？

A 長い間仕事をしていなく、自信がなかったです。

Q 採用後に週20時間以上の勤務にしたのは？

A 当初から週20時間以上の勤務を目指して頑張るつもりでした。先ずは今の仕事を一生懸命やりたいですが、新しい仕事もやってみたいし、勤務時間ももっと増やしていきたいです。

【埼玉県からお知らせ】
週20時間未満からの障害者雇用を支援します

週２０時間未満から雇用して徐々に労働時間を増やし週２０時間以上の雇用にしませんか？

埼玉県障害者雇用総合サポートセンターでは

- 雇用前の受入準備から個々の事業所に適した人材のマッチングを支援します。
- 雇用後週２０時間以上へのステップアップや職場定着まで、伴走してサポートします。

主な支援内容

- 社内コンセンサス、準備、作業環境、設備環境等雇用管理について具体的改善提案
- 仕事の切り出し方、働き方の工夫、業務手順の改善、配慮事項、職場環境の調整等
- 短期雇用体験利用（１日２時間×２日～）の提案
- ジョブコーチ利用の提案
- 関係機関と連携して企業をサポート　　他

【お問合せ先】　埼玉県障害者雇用総合サポートセンター
専任コーディネーターまで　TEL:0120-540-271

埼玉キッコーマン株式会社（食料品製造業）

埼玉キッコーマン株式会社はおそうざいの素で有名な「うちのごはん」などを製造する食品会社です。

従業員70名（短時間パート7名含む）のうち、2名の障害者（知的1名・精神1名）が仕事をしています。

100名に満たない小規模の食品工場ながら、最先端のオートメーション設備が整っており、1日10万食以上もの製品が出荷されています。

総務部長
田尻（たじり） 佳彦（よしひこ） さん
にお話を伺いました。

インタビューに答える田尻部長

雇用に至るまで

私はこの会社に2年前に赴任してきました。会社の方針で障害者雇用を進めることとなり、コロナ禍の中でどう進めようかと思っていた時にちょうどサポセンの障害者雇用開拓員から連絡をもらったのが最初のきっかけです。

障害者雇用開拓員からサポセンの支援内容などを説明してもらった後、同じサポセンの企業支援アドバイザーにつないでもらい「短期雇用体験」という作業実習をコーディネートしてもらいました。

この「短期雇用体験」が良かったですね。障害者も企業で働く体験ができますが、我々も障害者と一緒に働くことを理解することができます。実際にやることでわかることは多いと思います。

今働いてもらっている秦さんも短期雇用体験をしています。実習で上手くいかなかった作業を家で練習してくるなど本当に熱心でした。秦さんも当社で働きたいと思ってくれたらしく、体験後に求人に応募してもらい雇用に至りました。

仕事の様子

秦さんには、食品をパウチの袋に充てんする工程で機械に袋をセットしてもらっています。

実習の時からそうでしたが、ものすごく研究熱心です。
社員の作業を良く観察して、自分でも真似てやるなど工夫をしており、今では社員よりもスムーズに作業していますね。

最初は1台の機械で作業してもらっていましたが、今では3台の機械を受持ち、袋のセットをしています。

配慮について

声かけを意識していて、様子も気をつけて見るようにしており、社員にもそう言っています。

ただ、実はそこまで意識しなくても良い状況です。
何故なら、秦さんは自分からわからない事を積極的に聞いてきます。それだけでなく、作業について自分の意見も言ってくれます。この向上心には驚かされますね。

今後、パウチの補充だけでなく、いろいろな仕事を覚えてもらおうと考えています。
この先どんどん活躍してもらいたいと思っており、辞められたら本当に困りますね（笑）。
これからの育成や処遇は、私にとって大事な課題です。

障害者雇用について

当社は設備の充実にも、もちろん力を入れていますが、秦さんを雇用して「人間に勝るものはない」ということを再認識しました。

我々が切り出した作業と障害者の能力がマッチすれば、素晴らしい力となると思います。一工程、一部門だけの話ではなく、会社全体が良い方向に回っていくと感じています。

例えとしては適切でないかもしれませんが、障害者が上手くピースにはまる。これが重要と思います。
短期雇用体験などの実習はそのためのツールとして良くできており、今後も活用したいですね。

今後に向けて

キッコーマングループの理念の一つに「地域社会にとって存在意義のある企業をめざす」というのがあり、理念実現のための施策の一つとしてグループ全体で障害者雇用を進めています。

次は特別支援学校から新卒の人を採用したいと考えており、学校さんと連絡をとりあっています。
若い人に実体験の場を提供できればと思います。

サポセン 当事者 インタビュー

昨年6月にサポセンの支援で埼玉キッコーマン株式会社に本採用となった秦 幸宏さんにお話を伺いました。

Q どんなお仕事をしていますか？

A 食品を充てんするパウチの袋を、機械にセットする作業をしています。

Q 仕事はいかがですか？

A 作業する機械が3台に増えたので忙しいです。
パウチの袋を均等に並べるのが難しいです。

Q 働いてやりがいを感じることや、楽しいことは？

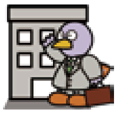
A 製品である「うちのごはん」のパウチをきれいに美しく仕上げることです。自分がスキルアップしたと感じると楽しいです。

Q 将来どのような仕事をしたいですか？

A 包装や殺菌など別のラインの仕事をして成長したいです。
将来、埼玉キッコーマンの全ての仕事をできるようになりたいです。

「うちのごはん」を持つ秦さん

「製品がお客様に届くことで、キッコーマンの気持ちも届けたいです」



埼玉県障害者雇用総合サポートセンターご案内

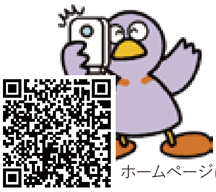
埼玉県障害者雇用総合サポートセンターは、埼玉県が運営する企業の障害者雇用を支援する専門機関です。

「企業の障害者雇用を全力でサポートします！」

1. 雇用に適した仕事を提案します
2. 雇用体験ができます
3. 働きやすい職場づくりを助言します
4. 職場に付き添って支援します

所在地
〒330-0074
さいたま市浦和区北浦和5-6-5
浦和合同庁舎 別館1階

利用時間
月～金　午前8時30分～午後5時
（祝日及び12/29～1/3を除く）



ホームページはこちらから

雇用開拓業務部門

障害者雇用開拓員が企業を訪問し、障害者雇用制度の仕組みや各種支援について情報提供します。

☎ 048-822-3111

企業支援業務部門

障害者雇用に向けて、専門のアドバイザーが具体的な助言・提案をします。
短期（3日～5日）の雇用体験（職場体験実習の受入れ）ができます。

☎ 048-827-0540

定着支援業務部門

障害のある人が職場に適応できるよう、ジョブコーチを派遣しサポートします。
支援機関のスキルアップもお手伝いします。

☎ 048-823-9020

障害者雇用に関するちょっとした困りごとは「障害者雇用ヘルプデスク」にお電話ください。

障害者雇用ヘルプデスク
コヨウヲツナイデ
☎ 0120-540-271

埼玉県では、障害者雇用のメリットやサポセンの支援をYouTube埼玉県公式チャンネルから「サポセンＰＲ動画」の配信をしています。
短時間の見やすい動画です。
ぜひ一度ご覧ください。

サポセン全体編（約10分）

動画はこちらから

雇用開拓部門編(約5分)

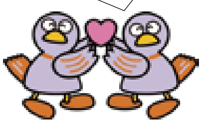
動画はこちらから

サポセンの新型コロナウイルス感染症拡大防止対策について

サポセンでは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に取り組みながら、雇用開拓、研修・セミナー、個別企業支援、ジョブコーチ派遣などの各種支援を行っています。
企業、支援機関の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

企業や障害のある人の意向を最優先にします。

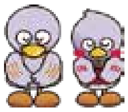
お伺いして大丈夫ですか？



サポセンスタッフは、感染予防を徹底します。

状況により支援の中止をお願いすることがあります。

感染リスクは避けましょう



発行：埼玉県産業労働部雇用労働課　障害者雇用総合サポートセンター